

吉岡町公共交通マスタープラン「概要版」

— 恵まれた都市環境を支える多様で連携のとれた公共交通体系の実現 —

1. 公共交通の課題

〈現 状〉

吉岡町は、前橋市・高崎市・渋川市のベッドタウンですが、町内に鉄道駅がないことから、町民は最寄駅である八木原駅・群馬総社駅を主に利用しています。また、町内には9本のバス路線がありますが、ほとんどが周辺市町村を起終点とする広域運行のため、吉岡町を通過する形態となっています。

全般的に町民の公共交通利用の習慣性は低いのが実情です。

〈問 題 点〉

公共交通が未成熟で、公共交通空白地域・不便地域の存在により町内の移動に大きな制約があります。結果的に町民の公共交通利用者は極めて少なくなっています。

〈計画課題〉

地の利を生かしたベッドタウンを支援する公共交通整備を行い、町民のスムーズな町内移動を確保し、環境に優しい公共交通の確保・維持、向上を図る必要があります。

2. 公共交通マスタープランの目標と基本方針

〈目標〉

恵まれた都市環境を支える多様で連携のとれた公共交通体系の実現

〈基本方針〉

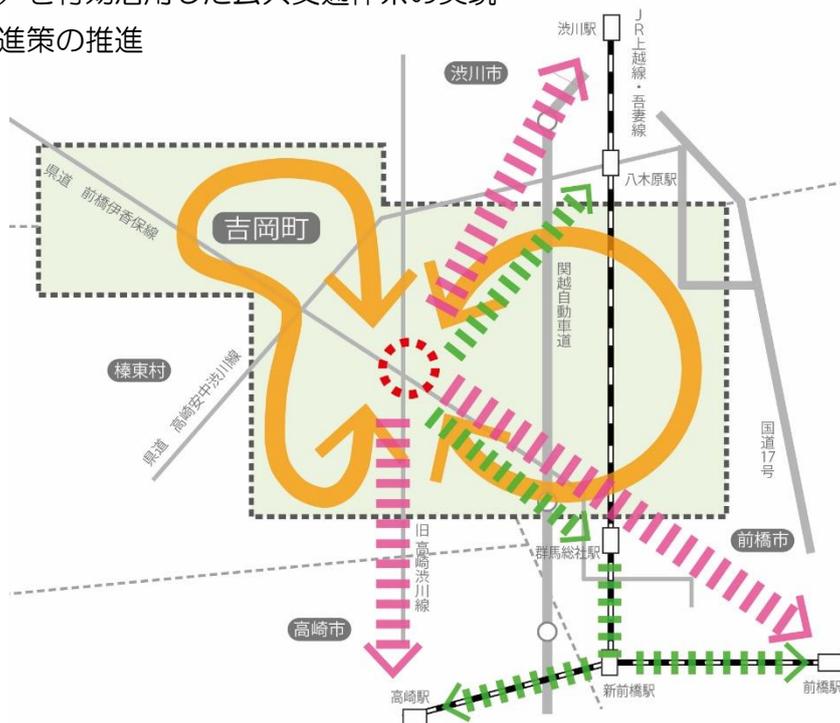
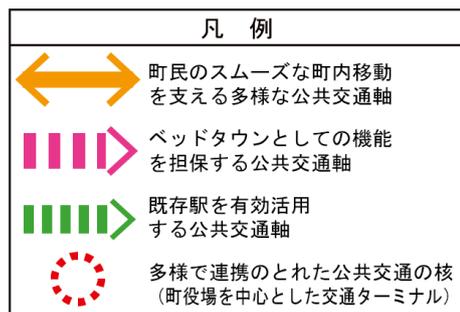
方針Ⅰ：町民のスムーズな町内移動を支える多様な公共交通体系の実現

方針Ⅱ：ベッドタウンとしての機能を担保する連携のとれた公共交通体系の実現

方針Ⅲ：既存駅（八木原駅・群馬総社駅）を有効活用した公共交通体系の実現

方針Ⅳ：町民の意識改革を含めた利用促進策の推進

【目標・基本方針の構築イメージ】



3. 基本方針と施策体系

方針Ⅰ：町民のスムーズな町内移動を支える多様な公共交通体系の実現

他都市との関連において町内を通過する形態の既存バス路線、それに伴う公共交通空白地域や不便地域の存在等、大きな制約のある既存の公共交通体系に対し、既存バス路線の改善、町内巡回バスや区域運行システムの導入等を通じて、町民のスムーズな町内移動を支える多様な公共交通体系の実現を目指します。

既存バス路線の改善

町内巡回バスの運行

区域運行システムの導入

グループタクシーの導入

交通ターミナルの整備

方針Ⅱ：ベッドタウンとしての機能を担保する連携のとれた公共交通体系の実現

隣接する前橋市・高崎市・渋川市のベッドタウンとして人口が増加する恵まれた都市環境にありながら、その多くの都市間流動を支える公共交通体系が未成熟であることに鑑み、鉄道・バス・自動車の連携のとれた公共交通体系の実現を目指します。

既存バス路線の改善

交通ターミナルの整備

サイクル&ライド駐輪場の整備

バス停環境の整備

方針Ⅲ：既存駅（八木原駅・群馬総社駅）を有効活用した公共交通体系の実現

吉岡町内における「新駅設置」は町の大きな目標ではありますが、需要面や経済面で短・中期の整備は難しいため、今後の群馬総社駅西口整備を見据え、住民意向の強い既存駅の有効活用を図る施策導入による公共交通体系の実現を目指します。

既存バス路線の改善

町内巡回バスの運行

パーク&ライド駐車場の整備

方針Ⅳ：町民の意識改革を含めた利用促進策の推進

利用しようと思えば利用できる鉄道や路線バスがありながら、町民の公共交通利用に関する習慣性が低いことに鑑み、路線バスの改善、町内巡回バスの運行等、利便性強化を図るとともに、「公共交通も利用してみれば意外と便利」との利用の習慣性を醸成するため、地区説明会の開催等、ソフト的な利用促進策を推進します。

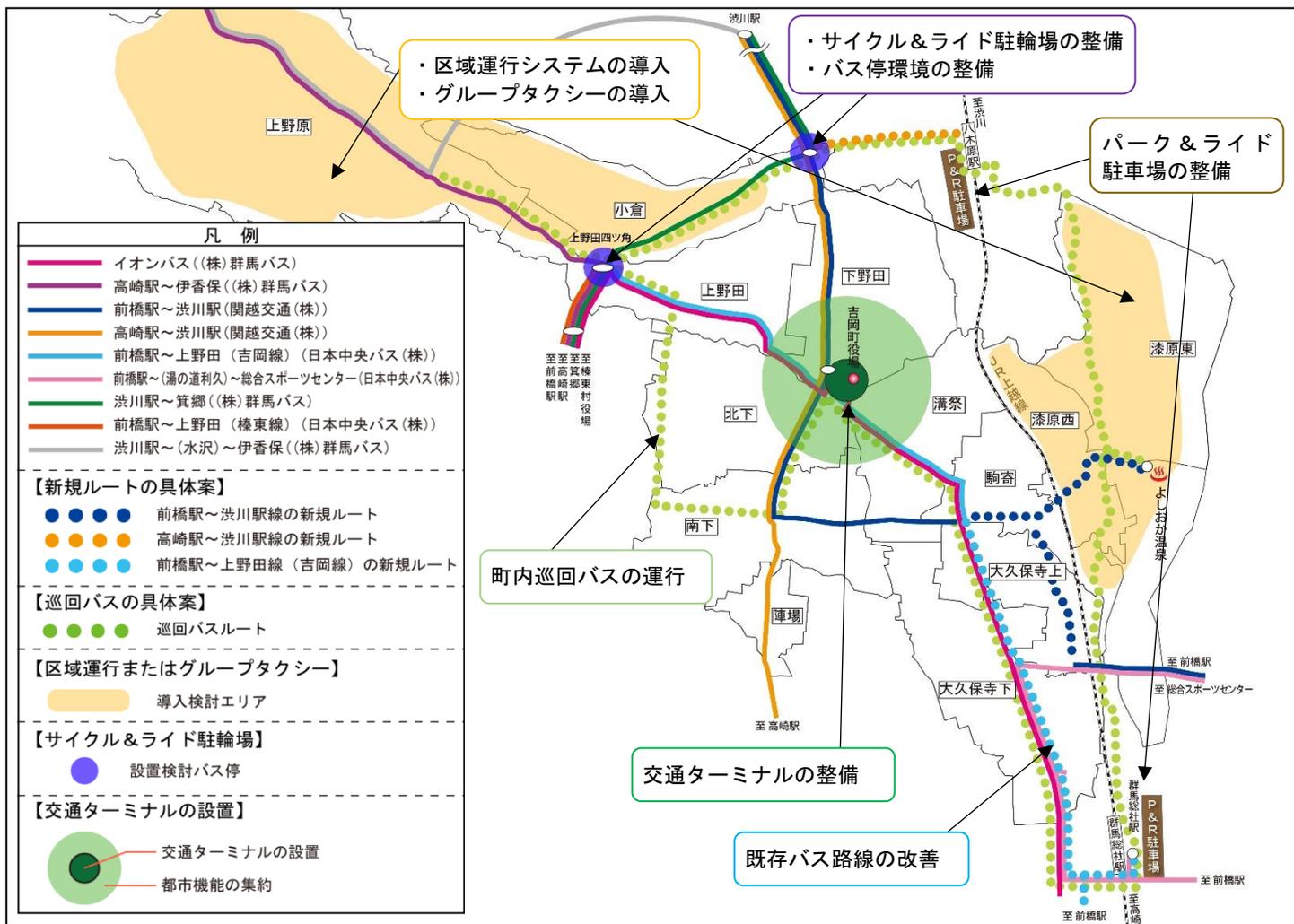
サイクル&ライド駐輪場の整備

バス停環境の整備

低床バス、ステップ付ワゴン車の導入

公共交通利用促進説明会等の実施

4. 公共交通整備計画 施策概要



5. 具体的施策

既存バス路線の改善

既存バス路線の改善により、公共交通空白地域、不便地域をできる限り解消し、市民のスムーズな市内移動を支援するとともに、既存鉄道駅へのアクセス性を高め都市間交流を公共交通で支える施策です。

具体的には、「前橋駅～上野田線(吉岡線)」の経路変更により大久保地区商業ゾーンへの立ち寄り、「前橋駅～上野田線(吉岡線)」と「高崎駅～渋川駅線」の「群馬総社駅」と「八木原駅」への立ち寄り、「高崎駅～伊香保線」の朝夕便の延伸運行、役場周辺への交通ターミナル整備による交通結節性の強化を図ります。

交通ターミナルの整備

役場周辺に公共交通の結節点として交通ターミナルを整備します。全てのバス路線がここを経由し、巡回バスや区域運行システムもここを中心に運行し、乗り換えや待ち合いの拠点となるよう整備します。

サイクル&ライド駐輪場・バス停環境の整備

バス停付近に駐輪場を設置することで、自転車でバス停まで行き、バスに乗ることが可能になります。また、最低限の雨風をしのげる屋根付きの停留所を整備し、バス利用者の安全性・快適性を確保します。

パーク&ライド駐車場の整備

群馬総社駅と八木原駅に、吉岡町も費用を負担し市民が優先的に利用できるパーク&ライド駐車場の整備が可能か検討します。

町内移動を支援する施策

公共交通空白地域・不便地域をできる限り解消し、町民のスムーズな町内移動を支援する施策です。以下に示す3つの施策は、どれも町内移動を支援する施策ですが、それぞれメリット・デメリットがあります。地域公共交通会議等を開催し協議を行った上で、どの施策を導入するか決定していきます。

- ①町内巡回バスの運行 ②区域運行システムの導入 ③グループタクシーの導入

■町内巡回バスの特徴

町内の医療施設や商業施設、群馬総社駅や八木原駅を巡回するバスです。メリットとしては、ダイヤが決まっており定時性が高く、利用者登録や予約の手間がなくバス停に行けば自由に誰でも乗車できることです。デメリットとしては、町で車両の確保が必要となること、バス停まで歩いていく必要があること、巡回ルートが決まっており好きなところには行けないこと、利用者が少ないと運行主体の負担が大きくなることなどがあげられます。

■区域運行システムの特徴

区域運行システムの代表として「デマンド運行」があります。「デマンド」とは「需要、要求」を意味し、デマンド運行は「需要や要求を受けて運行する」といったものです。利用者は相乗りで各目的地にそれぞれ向かいます。メリットとしては、基本的にはドアトゥドアで、どこで乗っても降りても定額、一人でも利用ができることです。デメリットとしては、町で車両の確保が必要となること、利用人数や目的地によっては運行時間がかかること、利用者がいない場合でも車両は待機の必要があり経費が発生することがあげられます。

■グループタクシーの特徴

グループ単位でタクシーを利用することで、タクシー運賃を複数人で負担し、運賃を抑えることができる施策です。実施の際には、タクシー助成券（例：500円を6枚）を町で交付し、助成券を運賃支払に使うことができます。メリットとしては、既存のタクシーを有効活用する形態であることから車両の確保の必要がなく導入が容易であること、好きな時に好きな所へ行けること、利用した助成券に応じ費用が発生するため維持費がかからないことです。デメリットとしては、目的地によって運賃が変動すること、基本的にはグループでの移動となるため一定の制約があること、グループリーダーの負担が大きいことがあげられます。

低床バス、ステップ付ワゴン車の導入

高齢者や障がい者にとって公共交通を利用する際に苦痛とされる1つに「乗り降りの段差」があります。近年では、こうした段差解消に配慮した低床バスやステップ付ワゴン車が導入され、高齢者や障がい者にとっての苦痛の軽減が図られています。町内巡回バス等の運行については、こうした車両の導入が可能となります。

公共交通利用促進説明会等の実施

公共交通利用促進説明会等を開催し、バスの乗り方や地域を走るバス路線の説明、公共交通の役割や地域における重要性の説明、バスへの改善要望等の把握を行います。

吉岡町公共交通マスタープランについて詳しく知りたい方は、吉岡町役場で計画書の全文を閲覧することができます。吉岡町のホームページにも本編を掲載しております。(http://www.town.yoshioka.gunma.jp/)

■ 吉岡町 総務政策課 政策室 TEL 0279-54-3111（代表） FAX 0279-54-8681